

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社テクノ高槻工場新築工事	階数	地上2F
建設地	大阪府北部大阪都市計画事業成合	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2023年7月28日
敷地面積	5,708㎡	作成者	大和ハウス工業株式会社流通
建築面積	1,250㎡	確認日	2023年7月28日
延床面積	1,968㎡	確認者	大和ハウス工業株式会社流通 一級建築士事務所 丸山翔



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆ 100%超:☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	補修・更新必要間隔の長い仕上げ材や配管を使用しているため、耐用年数の長い建築物であるとともに、駐輪場・駐車場の確保等によって周辺道路に渋滞を発生させない等、周辺の環境へも配慮した設計となっている。	<b>その他</b> 特になし。
<b>Q1 室内環境</b>	壁、床、天井に吸音材を使用しており、内装材にはF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 可能な限り緑地を施している。
<b>LR1 エネルギー</b>	屋根にルーファンを設置することで、建物内の熱気が排出され、冷房負荷の低減に有効な通風利用がなされている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 建物利用者のために適切な量の駐輪場・駐車場を確保している。また、「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目、及び、「広告物照明の扱い」の配慮事項の過半を満たしている。
<b>Q2 サービス性能</b>	補修必要間隔の長い外壁仕上げ材を使用しており、主要内装仕上げ材や、空調・給排水配管においても、更新必要間隔が長い部材・配管を使用している。	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	断熱材は、押出法ポリスチレンフォーム断熱材、吹付硬質ウレタンフォーム(A種断熱材)等、ノンフロン断熱材を使用している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R5-0045

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	株式会社テクノ高槻工場新築工事						
		建設地	大阪府北部大阪都市計画事業成合南土地区画整理事業施行地区内5街区						
		用途/区分	工場						
【評価結果】		CASBEE 総合評価					B+		
①	CO2削減					3			
②	みどり・ヒート アイランド対策					3			
③	建物の断熱性					評価対象外			
④	エネルギー削減					3			
⑤	自然エネルギー直接利用					○			
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
		エネルギー消費量の報告							
【評価項目】									
項目		評価内容				スコア	評価		
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.3	3		
② みどり・ヒートアイランド対策									
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				2.0	3		
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0			
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				3.0			
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価					-		
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				3.0	3		
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				4.0	○		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない		
その他									
		技術の名称			考慮事項				
先進的技術の導入									
特に配慮した事項									